その後いかがお過ごしですか？プロジェクト

NPO法人 福寿の里自然倶楽部

対応してくれた人の名前 ： 横光八洲男 事務局長
調査員 ： 近藤 朗、清水 雅子、浜口 美穂
レポート作成者 ： 近藤 朗
取材日 ： 2016年10月15日（前回取材日 2013年11月8日）
取材場所 ： 福寿の里事務所（岐阜県恵那市上矢作町）

活動内容（「山村再生担い手づくり事例集」より）

・過疎化と高齢化が進む上矢作町に少しでも活気を取り戻したいということで、NPO法人 福寿の里自然倶楽部を立ち上げた。信号もコンビニもない町だが、約10haの「アライダシ原生林」（正式名称：アライダシ自然観察教育林）をはじめ手付かずの自然だけはどこにも負けない。北の南限と南の北限の自然が融合した地域にあるアライダシ原生林は、他に類を見ない珍しい植生が見られる。霊峰大船山、その山服にある大船神社はかつて信仰の山として村人の永遠の心のふるさとである。境内には樹齢2,500年とも言われる巨樹の弁慶杉があり、また近隣の標高1,000mある大船牧場では360度のパノラマが楽しめ、これらを巡るエコツアーを実施している。
・12月には間伐体験（人工林：ヒノキ・スギ）も行っている。

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

●指定管理者として地域の担い手になる
福寿の里自然倶楽部（2011年4月設立）は、2014年4月より、上矢作町にある3つの宿泊施設「福寿の里モンゴル村」、「越沢コテージ」、「コテージかわせみ」の指定管理者として運営を任されることとなった。宿泊者にアンケートを実施したり、手紙を郵送するなどきめ細やかな配慮を行っており、これらを通じてアライダシ原生林を始めとする矢作川上流域の自然を伝えたいと願っている。リピーターも多いという。指定管理者制度とはいえ、都会のように他に競合相手がいるわけではなく、負担も大きいが、恵那市（上矢作振興事務所）からは頼りにされている存在である。（取材者は、なくてはならない存在であると感じた。）

●アライダシ原生林ツアーの継続実施と定着
福寿の里創設時（2011年）より実施してきたアライダシ原生林エコツアーも6年目を迎え、参加者も安定、定着してきた。「手つかずの自然を伝えたい！」思いは今も変わらず、会の横光哲理事（横光八洲男事務局長の次男）はツアー担当をしている。また福寿の里の講師に名を連ねている赤尾友和さんは、根の上高原でインタープリターをされている方（自然体験工房NENO代表）で、主にガイド養成を担ってもらっており、御子息含め若いメンバーとの連携や役割分担が構築されてきている。

●恵那市合併（2004年）後の新しい連携
福寿の里が原生林ツアーを実施している事、また宿泊施設の運営を担っている関係で、今まで関わりの深かった奥矢作森林塾の他に、恵那市他地域のNPO、例えば「心の合併」プロジェクトを進める「えなここ（2010年設立 恵那市全域）」や、「城下町ホットいわむら（2009年設立 旧岩村地区）」などとも新たにやりとり（宿泊、ツアー受入）をするようになり、繋がりが広がった。

●矢作川下流域の人たちにもっともっと来てほしい！
上矢作は矢作川の源流であり、是非とも愛知県の下流の人たちに来て、アライダシ原生林などを見てほしいというのが、前回取材での希望だった。その取材直前の2013年10月2日に、矢水協を含めた矢作川環境技術研究会（22名）が福寿の里、アライダシ原生林を訪れていたが、当矢作川流域圏懇談会山部会も2014年5月16日から17日にかけて福寿の里でのワーキングを行い、研修等での会議、モンゴル村での地域交流会、宿泊、そしてアライダシ原生林でのツアーも実施した。
横光さんはもっともっと来てほしいと願っている。

現在の課題について

２004年の合併で行政機能は恵那市役所に集約され、旧役場にあたる振興事務所の人員等規模が縮小されている。その中で恵那市各地では自立したNPOがそれぞれの地域で独自性を活かした活動を行い、役所機能を補完するという新しい恵那モデルを構築しているように見える。地域の方々が誇りを持って地元を担うという点で素晴らしいなと感じる一方で、横光さんが「負担が大きくなっている」と言われたように、行政側も今のうちに、さらに彼らを支えるための継続性を持った新たなシステム（行政とNPOの相互連携）を再構築するべきかなと感じた。これもニュー恵那モデルで。

福寿の里と同日取材した奥矢作森林塾（旧串原村）においても同様な課題が見える。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイディアがありましたら教えてください

「原生林にあまり多くの人たちに来てもらいたくないと思う反面、下流域の人たちには是非源流を見てもらいたいと思う。」とのこと。矢作川下流域にはその水を利用している企業も数多くあり、彼等への広報ツールとして活用しても良い。福寿の里には研修施設もあるため、研修（CSR等）、エクスカーション利用が期待できる。そのための流域マップ作製やツアーコース設定があると良いかもしれない。

矢作川流域圏懇談会山部会でのアライダシ原生林訪問と福寿の里交流会（2014年5月16日～17日）

是非来てくださいとのお声に応え、素敵な時間を過ごさせていただきました。

山部会（恵那）WGを始めてモンゴル村で開催した後、福寿の里自然倶楽部の方々などとの交流会を同場所で行いました。福寿の里からは、度会三治理事長、横光八洲男事務局長を始め横光哲理事まで多くの方々に参加いただき、串原林業の三宅大輔さん、恵南森林組合の大島徳雄理事、奥矢作森林塾の大島光利さん、小林太郎さん、根羽村森林組合の今村さん、南木さんなど「山村再生担い手育成事例集」の登場人物が顔を揃えるというにぎやかなものとなりました。翌日も横光さんなどのお骨折りによりアライダシ原生林へのガイドツアーを体験したものです。

写真

今回、横光八洲男さんへの取材、3年前（2013年11月）と変わらない風景

2016年10月 横光さんを囲み福寿の里事務所前にて

アライダシ原生林を訪れた私たち　2014年5月

モンゴル村にて矢作川流域圏懇談会を開催
右端が串原農林の三宅さん　2014年5月